

下町のマイスターが語る 金網の世界

今回は、荒川区より優良企業として推薦され、また創業1922年（大正11年）より堅実に実績を伸ばしている下町のマイスター「石川金網株式会社」様に伺いました。お話を下さったのは、スクリーン事業部 奥津部長代理様です。

【歴史と主な事業】

佐藤：社名にも使われている金網業について教えてください。私達が一般的にイメージする金網は、焼肉の焼き網、理科実験の石棉網、調理器具としてのザルや茶こし、また建築材料としての網戸、フェンス位ですが、あまり想像できません。これまでに、そして現在はどんな商品を取り扱っているのでしょうか？

奥津部長代理：1922年、荒川区三河島に金網製造販売を目的として石川金網製作所を創業しました。戦時中には旧日本軍の航空機、艦船等の軍事協力工場となり、電波探知機、兵器関係用の金網の製造を行っていました。終戦後、平和産業へと用途転換を図り、金網加工品の製造を再開し、クrimp金網織機、菱型金網織機を導入、建築用金網の製造を開始しました。

戦後、海外から低コストの製品が入ってきたのと同時に、国内の石油化学工業の急成長により、現在の主力製品は、工業用機械、産業用機械に使用されるフィルター等金網を使った部品にシフトしています。

【チャンスとタイミング】

奥津部長：金網の基本的役割は、「通す作用Run（スムーズに流す）」と「捕らえる作用Catch（不純物を除く）」二つの役割を担っています。

現在の主力事業である「押出機専用スクリーン（フィルター）」については、プラスチックやゴムの素から不純物を取り除き樹脂を成形します。金網から市場を奪ったプラスチックや樹脂を作る工程の一部を巡り巡って金網が担っています。しかし、それがビジネスです。他にも、工業製品としては、ボンネットやスピーカー、産業製品としてはフライヤー等があり、関東地区では、シェア1位を頂いております。建築系分野では、バルコニーや手すり、ブランドショップのディスプレイラックなどに使われるアートエキスバンドメタル、デザイン性と機能性を併せ持つパンチングメタル（パーフォアート®）なども扱っています。新製品に関しては、お客様のご要望に答えているうちに、それがビジネスに繋がったという、有難い環境でした。時代の流れのチャンスとタイミングを上手く活かせたのかも知れません。経営陣の柔軟な対応で、100年近く事業が継続する事が出来ました。



IKスクリーン®（樹脂押出機専用フィルター）



デザインパンチングメタル（パーフォアート®）



アートエキスバンドメタル

